

2022年11月24日

報道関係各位

公益財団法人 笹川スポーツ財団

笹川スポーツ財団 『スポーツ 歴史の検証』 インタビュー ——スケートが「北海道から世界」へ連れて行ってくれた—— 第113回 岡崎 朋美 氏

(1998年長野オリンピック女子スピードスケート 500m銅メダリスト)

「スポーツ・フォー・エブリワン」を推進する笹川スポーツ財団（所在地：東京都港区赤坂 理事長：渡邊一利）では、日本のスポーツの歴史を築かれてきた方々のインタビューをもとに、スポーツの価値や意義を検証し、あるべきスポーツの未来について考えるためのスペシャルサイト「スポーツ 歴史の検証」に掲載しています。

2022年度のテーマは「冬季オリンピック・パラリンピック」。これまでの冬季大会で活躍した選手や尽力されてきた方々に、それぞれの思いをお話しいたします。

今回登場するのは、長野1998大会で、スピードスケート日本女子短距離界、初めての銅メダルを獲得した岡崎 朋美氏。また、女子選手の大きな課題である「出産後の現役復帰」にも果敢に挑戦し、現在では「北海道・札幌2030オリンピック・パラリンピックプロモーション委員会」の委員として招致活動にも尽力されています。そんな岡崎氏の貴重なインタビューを、是非お読みください。

「スポーツは幸せな人生を送るためのツール」 岡崎 朋美 氏

【公開日】2022年11月24日（木）

【URL】https://www.ssf.or.jp/ssf_eyes/history/interview/113.html

スポーツ歴史の検証 インタビュー で検索ください！

【主な内容】

ライバル出現をきっかけに始めたスピードスケート/転機となった長田監督との偶然の出会い/意識を変えたアルベールビルオリンピック/明暗が分かれたスラップスケートの導入/後進に残したかった出産後の現役復帰の道/冬季大会に不可欠な自然との深いかわり/命ある限り続けたチャレンジ



《プロフィール》

■岡崎 朋美（おかざき ともみ）氏

1971年生まれ。釧路星園高校を経て1990年より富士急行株式会社スピードスケート部に所属する。1994年リレハンメル、1998年長野、2002年ソルトレーク、2006年トリノ、2010年バンクーバーと日本女子選手として初の冬季オリンピック5大会連続出場。1998年長野大会では500mで銅メダルを獲得。2013年現役を引退。現在ではマスターズ大会に出場する傍ら、札幌2030大会招致活動に尽力している。

■佐野 慎輔（さの しんすけ）氏 / インタビュアー

1954年生まれ。産経新聞客員論説委員、笹川スポーツ財団理事／特別上席研究員。スポーツ記者を30年以上経験し、日本オリンピックアカデミー理事、野球殿堂競技者表彰委員を務める。

<スポーツ歴史の検証>概要

【企画制作】公益財団法人笹川スポーツ財団

【後援】スポーツ庁、東京都、公益財団法人日本スポーツ協会、公益財団法人日本オリンピック委員会

【特別協力（予定）】株式会社アシックス



この件に関するお問合せ先
笹川スポーツ財団 広報担当：清水、齊藤、竹下
TEL：03-6229-5300 info@ssf.or.jp